

第4分科会 学校図書館

「POP王に学ぶ！学校図書館で活かすPOPの力」

講師：内田 ^{うちだ} 剛 ^{たけし} 氏（ブックジャーナリスト）

本のおもしろさを伝え、読書への道標となるPOPは、学校図書館の魅力を発信し読書活動推進の手立てとして大きな可能性をもつ。POP作成の手順や表現のコツ、教育活動としてのPOP作成等について、全国学校図書館POPコンテストアドバイザーとしてご活躍され、全国各地の学校や図書館でワークショップを実施されている「POP王」こと内田剛氏に講演



いただいた。また、参加者が持参したPOPについて講評をいただき、実践的な視点から具体的な助言を受ける機会ともなった。

POPとは、自分では良さを話すことができない本に代わり、その傍らで「この本、おもしろいから読んでみて」と語りかける存在である。本を選べない、探し出せない時代だからこそ「道標」としてPOPが求められている。近年は教科書にも取り上げられ、教育現場でもPOP作成の熱が高まってきていることを実感している。

ワークショップでは、アイデアを出し、気持ちを込めて、自由に楽しんで作成することの大切さを伝えている。一般的なPOPには、タイトル・キャッチコピー・著者名・あらすじ・イラスト・効能（読むとどんな気持ちになるか）等が書かれているが、何を書かなければいけないという決まりはない。書店や図書館のPOPにはどんなことが書いてあるのか見るのも参考になる。

POP作成のポイントは「アイウエオ」の5つで表せる。①アクセント＝強調する、②インパクト＝印象を与える、③ウエルカム＝作品に寄り添う、④エンジョイ＝楽しむ、⑤オリジナル＝自分の言葉で書く、である。POPや本の前で「立ち止まらせる」ために様々な工夫（形・色・デザイン・字体・フレーム・はみ出す貼り方、めくらせる等）を凝らしたい。「立ち読みポイント」となる短いフレーズのキャッチコピーは大事である。

効能を書くPOPでは、「泣ける！」だけでなく、「泣ける！おばあちゃんに会いたくなかった」のように、自分の言葉を加えることで書き手の顔が見えるPOPになる。その本との出会いや選んだ理由等、自分のことを自分の言葉で楽しみながら書けばよい。

教育活動実践の一例として、中学校2年の国語授業で『走れメロス』を課題図書とし、作成したPOPのアドバイスを行って、夏休みにPOP作成、学園祭での発表、書店での展示フェアへとつなげた。こうした取り組みによって、国語科の読解と表現の両方をPOPで学ぶ実践となっている。

子どもたちの周りに本がある環境をつくと共に、大人たちが楽しそうに本の話をしている姿を見せていきたい。本の装丁をはじめとする出版文化の素晴らしさを知るとともに、読書へのきっかけとなる。紙の本の魅力を伝え続ける文化を育み、POPを通しておもしろい本との出会いがさらに増えていくことを願っている。



自己紹介

内田 剛 (うちだ・たけし)

ブックジャーナリスト。

1991年三省堂書店に入社、約30年勤務し、

2020年2月よりフリーランスに。

NPO法人本屋大賞実行委員の理事で創立メンバーのひとり。

文芸書をメインに各種媒体でのレビュー、

学校や図書館でのPOP講習会などを行っている。

これまで作成した手書きPOPは6,000枚以上。

著書に『POP王の本！』『全国学校図書館POPコンテンツ公式本

オススメ本POPの作り方 (全2巻)』がある。無類のアルパカ好き。

「POP王直伝！ 目を引く手書きPOP作成講座」



